

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の自己点検・評価体制における意見等

### ● 学内からの視点

#### 1. プログラムの履修・修得状況

名古屋音楽大学ファカルティ・ディベロップメント委員会において、プログラムの履修状況・単位取得状況を分析する。

また、授業支援システムから出席率等を把握したうえで修得状況の改善に活用する。

<年度別実績>

| 年度     | 履修者数 | 修了者数 | 履修率   |
|--------|------|------|-------|
| 2022年度 | 2    | 1    | 0.05% |

#### 2. 学修成果

名古屋音楽大学ファカルティ・ディベロップメント委員会において、全科目で行っている授業評価アンケート、および、本教育プログラム独自の授業理解度アンケートの回答内容の分析を行い、学生の全体的な理解度、修業意欲を把握し、授業内容や授業方法の改善を図る。

<年度別成績分布>

科目名を伏せた状態で履修者数と成績分布を公表します。

2022年度

| 科目  | 履修者数 | S評価 | A評価 | B評価 | C評価 | D | 出不・放棄 |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|---|-------|
| 科目① | 1    | 0   | 0   | 1   | 0   | 0 | 0     |
| 科目② | 2    | 1   | 0   | 0   | 0   | 0 | 1     |

#### 3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本教育プログラムの履修者全員に対して授業理解度アンケートを実施し、名古屋音楽大学ファカルティ・ディベロップメント委員会において学生の理解度を分析し、授業改善に活用する。

<質問内容>

名古屋音楽大学 HP - 教育情報の公開 - 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル) - 授業理解度アンケート内容に公開しています。

<年度別集計結果>

名古屋音楽大学 HP - 教育情報の公開 - 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル) - 授業理解度アンケート集計結果に公開しています。※2023年度より実施。

#### 4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

全学的に実施している授業評価アンケートでは、後輩等他の学生への推奨度を問う項目は設定されていない。今後、名古屋音楽大学ファカルティ・ディベロップメント委員会で本教育プログラム独自の授業理解度アンケ

ートの実施を行い、後輩学生への推奨度等の調査を実施する。

#### <質問内容>

名古屋音楽大学 HP - 教育情報の公開 - 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル) - 授業理解度アンケート内容に公開しています。

#### <年度別集計結果>

| 年度 | ① 勧める | ② わからない | ③ 勧めない | 推奨率 |
|----|-------|---------|--------|-----|
|    |       |         |        |     |

※2023 年度より実施。

### 5. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムの基礎となる本学科目「数理・データサイエンス・AI 入門」の履修方法を、現在の選択から、必修または選択必修とするカリキュラムの改編を検討し、履修率の向上に努める。

## ● 学外からの視点

### 1. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本学では、学生の就職状況と本教育プログラムの修了状況を把握しているため、教育プログラム修了者の進路の調査を行うことは可能である。

また、本学キャリア支援センターが、従前より卒業生および卒業生の就職企業に対し、アンケート調査を実施しており、今後は教育プログラムに関わる調査項目を追加し、教育プログラムの効果(活躍状況や企業の評価)などを分析できるようにする予定である。

### 2. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

データサイエンス教育に関しての連携協力企業からの意見を踏まえると、数理・データサイエンス・AI に関しての技術や知識を期待されることは多くないため、現時点での技術や知識の習得を目指すのではなく、これらの概念を理解するとともに、これからの社会におけるこれらの役割について理解することを基本に据えることで、その活用能力の育成に重点を置くこととする。このことは、急速に変化変容していくであろうこれからの社会において、自分の意見を持ち、臆することなく提案を行っていき、そうした主体的に活躍できる人材の育成、自身の役割を自らが創出できる能力の育成へと繋がると考える。

### 3. 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

5つの審査項目および、モデルカリキュラムの各項目を網羅した授業を開講することにより、数理・データサイエンス・AI が現在の社会の中でどのように活用されているか、どのような価値を創出できるのかを紹介し、数理・データサイエンス・AI を学ぶ楽しさと、学ぶことの意義を理解させている。

### 4. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

名古屋音楽大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が全学的に実施している授業評価アンケートに加え、本教育プログラム独自の授業理解度アンケートを実施することで、学生の理解度を調査し、名古屋音楽大学ファカルティ・ディベロップメント委員会と各科目の担当教員による「分かりやすい」授業を模索していく。